

ショートコメント vol.402 (2026年5月15日)

テーマ：月間で過去最高を記録した輸出額

～世界的な AI 需要の拡大に伴う、部品輸出の急増が追い風に～

●過去最高となった輸出

26年3月の全国の輸出額は11兆円を超え、過去最高を記録した(図表1)。

輸出を取り巻く環境は、まだ自動車を中心にトランプ関税の影響が続く中とあって、今回の結果は意外という印象が強い。

輸出が好調となった主因は、世界的な AI 需要の増加に伴う動きであり、特に台湾や中国向けの電子部品の供給がけん引した。26年3月の輸出全体は前年比で11.7%の増加となったが、そのうち電子部品などを擁する「電気機器」の寄与度が3.5ポイントと、全体の3割を占めている(図表2)。

23年から24年にかけては、主に「輸送機械」(自動車等)が輸出の増加をけん引していたが、ここへきて、電子部品等の電気機器に主役が代わる形となっている。

世界的な AI 需要の拡大に伴い、日本の輸出が増えるという動きは、AI 関連製品の世界的サプライチェーンにおいて、日本が大きな役割を果たしていることに他ならず、1つの明るい材料といえよう。

●AI 関連への中長期的な期待

一般的に、AI 関連の開発では、日本は米国や中国に先行を許す形となっているが、製品の生産段階では日本も存在感を発揮している。

AI に対する需要は中長期的な増加が確実視される中、こうした動きは今後も続く見込みであり、日本の輸出にも一定の追い風が吹くことが期待されよう。

過去にもこうした製品や技術は存在したが、当初は日本で生産がスタートしても、生産規模が大きくなるにつれて、順次アジア等に拠点を移す動きが一般的であった。ただ AI に関しては、企業の間で経済安全保障等の意識も高く、国内生産を重視した対応が続くことが期待される。

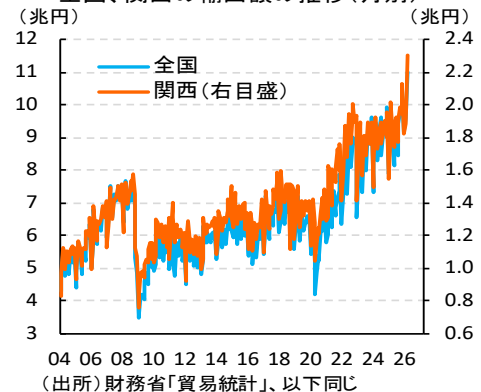
ただし、輸出に関する短期的な見通しでは、今後は中東情勢の行方が不透明な中、場合によっては前年割れに陥る可能性も否定できない。特に、ナフサ不足が自動車や電機関連の生産に支障をきたせば、輸出への悪影響は避けられず、当面は警戒が必要とみられる。

●関西の大きな存在感

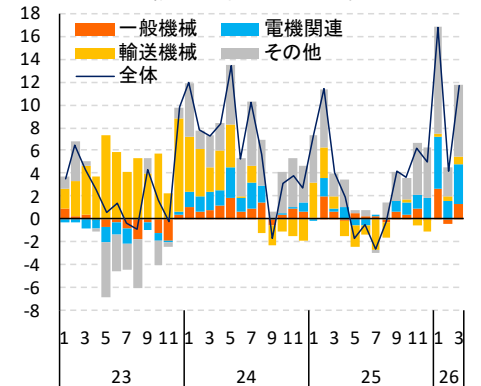
こうした中、関西は日本の電子部品輸出において大きなウェイトを占めている。

関西の輸出全体は全国で2割程度を占めるが、半導体等電子部品に限れば4割強に達するなど、その存

【図表1】 全国、関西の輸出額の推移(月別)



【図表2】 (%) (全国)輸出の推移と主な業種別内訳



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

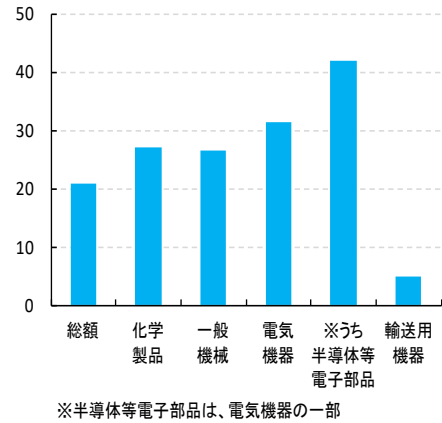
在感は大きい（図表3）。こうした動きに伴い、関西の26年3月の輸出は13.9%増と大きく増加し、そのうち電気機器が5ポイント、電子品関連が3ポイントをそれぞれ占めている。

なお関西の輸出が全国以上に好調となったのは、こうした電子部品の伸びはもちろん、構造的に自動車の輸出が少なく、トランプ関税による影響を受けにくいことも一因に挙げられよう。

関西経済といえば、近年はインバウンド市場の好調が目立っているが、今回の輸出の動きをふまえると、それだけではないことが分かる。世界的なAI需要の拡大に伴う輸出増というトレンドに、関西が大きな存在感を発揮していることは間違いのない。

今年度から始まる高市政権の成長投資戦略では、AI・電子部品は17の重点投資分野の1つに挙げられている。さらなる投資の拡大を含め、今後の動きが期待されよう。

【図表3】 関西の分野別輸出額の全国比(26年3月)



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。